

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

**実用新案登録第3117154号
(U3117154)**

(45) 発行日 平成18年1月5日(2006.1.5)

(24) 登録日 平成17年11月16日(2005.11.16)

(51) Int. Cl.

A 4 5 F 3/02 (2006.01)

F I

A 4 5 F 3/02

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2005-7999 (U2005-7999)
 (22) 出願日 平成17年9月29日(2005.9.29)

(73) 実用新案権者 000228051
 日本エイテックス株式会社
 東京都文京区千駄木4丁目11番10号
 (74) 代理人 100109955
 弁理士 細井 貞行
 (74) 代理人 100111785
 弁理士 石渡 英房
 (74) 代理人 100127409
 弁理士 中村 正道
 (72) 考案者 八木澤 誠
 東京都文京区千駄木4丁目11番10号
 日本エイテックス株式会社内

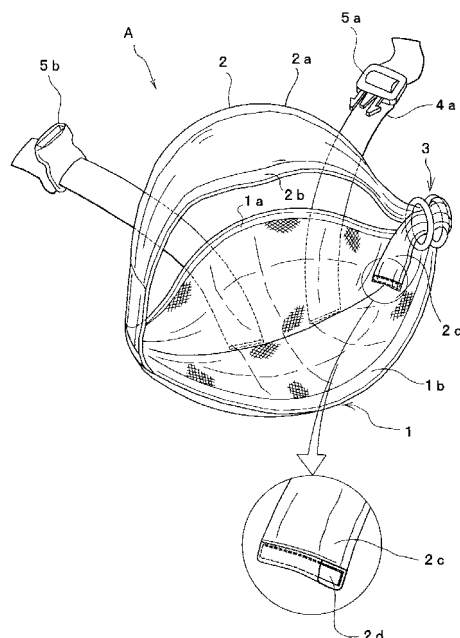
(54) 【考案の名称】 ベビーキャリア

(57) 【要約】

【課題】 スリングキャリア式のベビーキャリアの利点を生かしつつ、使用中の姿勢変化により生じ易いキャリア本体の振れを合理的に防止し、その安全性を高める。

【解決手段】 乳幼児を包むキャリア本体1の一端側から肩帯2を延出し、該肩帯2の先端とキャリア本体1他端側との間を係止体3により長さ調節可能に連結し、前記キャリア本体1に腰ベルト4a, 4bを取付け、この腰ベルト4a, 4bを使用者の腰周りに巻回可能に構成した。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

乳幼児を包むキャリア本体を有し、このキャリア本体の一端側から肩帯を延出し、該肩帯の先端とキャリア本体他端側との間を係止体により長さ調節可能に連結し、更に、該キャリア本体に該キャリア本体を使用者の腹部に密着保持する腰ベルトを取り付けたことを特徴とするベビーキャリア。

【請求項 2】

腰ベルトの取付部分をキャリア本体の略中央とした請求項 1 記載のベビーキャリア。

【請求項 3】

腰ベルトの取付部分をキャリア本体の一端側と他端側とに離して設けた請求項 1 記載のベビーキャリア 10

【請求項 4】

キャリア本体の側縁部に沿ってクッション材を沿設して成る請求項 1 乃至 3 の何れか一項記載のベビーキャリア。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、乳幼児を抱っこする際に用いるベビーキャリアに関し、さらに詳しくは、幅広且つ無端状の帯布等から構成され、乳幼児を下から包むようにサポートして、背中から肩にかけて吊るすように装着する所謂スリングキャリア式のベビーキャリアに関する。 20

【背景技術】**【0002】**

従来、乳幼児を抱っこする際に使用するベビーキャリアの中には、幅広状の帯布を無端状に繋ぎ、背中から肩にかけて吊るすようにして装着し、子供を包むようにして親の正面側に抱っこして使用する形態のものがある。これらはスリングキャリアとよばれ、形態が比較的自由に變形して使いやすく、且つ子供も親も疲れない等の理由から利用者が徐々に増加している。

上記したスリングキャリアは寝た状態の乳幼児を下から包んで抱っこする姿勢や、前屈み、さらに子供を座らせた姿勢で親と正対させる姿勢など色々な姿勢に対応することができる。また、姿勢の変化に伴ってある程度帯布が變形するので、子供が楽であり、且つ、子供の体重は親の背中から肩にかけて広い面積に加わるため、肩に加わる負担が少なく疲れない等の利点がある。 30

【0003】

ところで、上記したようなスリングキャリア式のベビーキャリアは、幅広状の帯布から成るキャリア本体にて乳幼児を包み、親が背中から肩にかけて吊るす状態で子供を寝かせる場合、若しくはミルク等を与える状態。またはキャリア本体に乳幼児を座らせた状態で上体を起こし、親と対面させる状態。さらに、キャリア本体にて寝かせた乳幼児をベビーベッドなどに移して寝かせる場合など、ベビーキャリアを装着して抱っこした姿勢から色々な姿勢へと移行する使用が多い。 40

このような姿勢の移行時において、スリングキャリア式のベビーキャリアは、キャリア本体の振れに伴って、子供をサポートするキャリア本体部分と親の腹部との間が開き易くなるため、キャリア本体にてサポートする乳幼児が不安定になる瞬間がある。このような場合、親の手で確りとサポートする必要を生じるが、あやまって子供がキャリア本体からずり落ちる可能性もある。

また、従来のスリングキャリア式のベビーキャリアは、キャリア本体に子供を座らせ、上体を起こして親と正対する姿勢を取ると、乳幼児の足はキャリア本体の一侧から下に飛び出て親の腰にびたりと当たる姿勢を取ることになるが、この状態では子供の足がキャリア本体の一侧縁部が子供の足に比較的強く圧迫されるため、同じ姿勢を続けると場合によっては子供の足に負担をかけることや、子供に不快感を与えることにもなる。 50

【特許文献１】実開平７－１４９２１号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【０００４】

本考案は上記したような従来事情に鑑みなされたものであり、その目的とする処は、従来のスリングキャリー式のベビーキャリアの利点を生かしつつ、使用中の姿勢変化により生じ易いキャリア本体の振れを合理的に防止し、その安全性を高めることにある。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

本考案は、上記目的を達成するために下記の技術的手段を採用した。

10

第１考案のベビーキャリアは、乳幼児を包むキャリア本体を有し、このキャリア本体の一端から肩帯を延出し、該肩帯の先端とキャリア本体他端との間を係止体により長さ調節可能に連結し、上記キャリア本体に腰ベルトを取付け、この腰ベルトを使用者の腰周りに巻回して長さ調節可能且つ着脱自在に構成したものである。

上記したキャリア本体は乳幼児を包むに十分な幅を有し、その一端から延出した肩帯は係止体を介してキャリア本体の他端と連結され、係止体により長さが調節される。係止体は例えば２個のリングから成るものであっても、合成樹脂等からなる係止構造を成すものであってもよい。

また、キャリア本体に取り付ける腰ベルトは使用者の腰周りに巻回できるものであれば、既存のどのような構造のベルトを用いてもよい。係止具やフック等により着脱可能であっても、若しくは帯紐のように縛り付けるものであってもよい。

20

【０００６】

第２考案は、キャリア本体の揺れ動きを効果的に防止する上で、腰ベルトの取付部分をキャリア本体の略中央としたものである。

第３考案は、腰ベルトの取付部分をキャリア本体の一端側と他端側とに離して設けたものである。腰ベルトの一端と他端との間は子供の足とベルトとの位置関係を考慮したものであり、使用中に子供の足がベルトにより圧迫を受けない範囲でベルト取付部分の間隔を設定することを特徴とする。

第４考案は、子供への圧迫回避を考慮して、キャリア本体の一側縁部と他側縁部に沿ってクッション材を沿設したものである。クッション材はキャリア本体の縁部に沿って適度な弾性を有するクッション材を内装する方法やクッション材自体をキャリア本体の縁に沿って付設する方法が例示できる。

30

【考案の効果】

【０００７】

本考案のベビーキャリアによれば、下記のような優れた作用、効果が期待できる。

第１考案のベビーキャリアは、乳幼児を包むキャリア本体を備え、このキャリア本体に腰ベルトを取付け、同腰ベルトを使用者の腰周りに巻回して長さ調節可能且つ着脱自在に構成したものである。これにより、使用中における姿勢の変化に伴ってキャリア本体が大きく揺れ動いた場合でも、使用者の腰に巻かれる腰ベルトにより乳幼児を包むキャリア本体を確実に保持し、キャリア本体と使用者腹部との間が大きく開いてしまうことを防止することができる。この結果、キャリア本体内部にて保持される乳幼児の姿勢が大きくずれたり、またはキャリア本体と使用者の間からずれ落ちたりする問題を解決し、スリングキャリー式ベビーキャリアの利点を生かしつつ使用中における安全性を確保することができる。

40

【０００８】

第２考案のベビーキャリアは、腰ベルトの取付部分をキャリア本体の略中央としたものであるから、姿勢の変化により子供を包むキャリア本体が大きく振れたとしても、上記腰ベルトによりそのキャリア本体を使用者の腹部の中央にて確実に保持することが出来、より安全性に優れたものとなる。

【０００９】

第３考案のベビーキャリアは、腰ベルトの取付部分をキャリア本体の一端側と他端側と

50

に離して設けたものである。よって、上記したような腰ベルトによるキャリア本体の保持効果を奏すると共に、キャリア本体に子供を座らせて上半身を立てて親と対面する姿勢を取った際において、子供の足は適宜な間隔をおいて離れた両腰ベルトの間から垂れ下がる形となり、子供の足が腰ベルトに当たって邪魔になる不具合を解消することができる。

【 0 0 1 0 】

第 4 考案のベビーキャリアは、キャリア本体の一側縁部と他側縁部に沿ってクッション材を沿設したものである。これにより、乳幼児の触れるキャリア本体の両側縁部の触感がソフトになり、仮に子供の手足に圧接する場合が生じてもこれを柔げ、無理な姿勢を取った際にキャリア本体の縁部が子供に対して与える圧迫感を軽減することができる。

また、使用者にとっても装着感が向上し、使用時の負担も軽減される利点がある。

10

【考案を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 1 】

以下、本考案のベビーキャリアを実施するための最良の形態を図 1 乃至図 5 に基づいて説明する。

図 1 図は本考案を実施したベビーキャリア A であり、乳幼児を包むキャリア本体 1 の一端から幅広状の肩帯 2 を延出し、この肩帯 2 の先端とキャリア本体 1 の他端部に取り付けた 2 個のリングからなる係止具 3 に通して締め付け、長さ調節可能に接続してある。この状態において、ベビーキャリア A は幅広で且つ無端状の形態、即ち、スリングキャリアの形態となる。

上記キャリア本体 1 は乳幼児を包むに十分な幅と長さを有し、略楕円形に形成され、その中央部から二枚折りになるように縫製されている。キャリア本体 1 は丈夫な合成繊維布や綿布等を縫製してなり、その内面側には肌触りのよいメッシュ生地を配して使用感を高めている。また、キャリア本体 1 の一側縁 1 a と他側縁 1 b とに沿ってはスポンジ等のクッション材を内装して縫着してある。これにより、キャリア本体 1 の両側縁 1 a , 1 b は膨らみを持ち、乳幼児や使用者に圧接した際における圧迫感が緩和され、同時にキャリア本体 1 縁部の補強がなされる。乳幼児は、上記したキャリア本体 1 の中に寝た状態、また、上半身を起こして座った状態でサポートされることになる。

20

【 0 0 1 2 】

上記したキャリア本体 1 の一端部から延出する肩帯 2 は、中央部の幅が最も広く、使用者の背中から肩にかけて広く接触するように十分な幅を確保してある。

30

また、肩帯 2 の一側縁 2 a と他側縁 2 b とに沿ってはキャリア本体 1 の両側縁 1 a , 1 b と同様に、スポンジ等のクッション材を内装して縫着してある。これにより、使用者の肩に加わる負担や圧迫感を低減し、さらに肩帯 2 両縁部を補強することもできる。

上記したように構成した肩帯 2 の先端はキャリア本体 1 の他端部に取り付けた係止体 3 の 2 個のリングに挿通して折り返し、使用者に合った適宜な長さにて締め付ける。上記した係止体 3 は十分な強度を有する 2 個のリングを組み合わせて成るものが一般的であるが、これに用いる係止体は肩帯の長さを調節できるものであれば、既存のどのようなものを用いてもよい。

また、本実施例においては、肩帯 2 の先端部 2 c の縁に沿って適度な弾性と保形性を有する合成樹脂板から成るストッパ 2 d を内装し、使用中に上記係止体 3 のリングから肩帯 2 先端部 2 c が抜け出るのを防止している。尚、上記したストッパ 2 d の材質や形状などは適宜に変更してもよい。

40

【 0 0 1 3 】

キャリア本体 1 の下面側の中央部には腰ベルト 4 a , 4 b の基端部が止着してある。腰ベルト 4 a , 4 b は使用者の腰周りに巻回してキャリア本体 1 を使用者の腹部前にて保持するためのものであり、各々の先端部には着脱可能な掛止具 5 a , 5 b を取り付けしてある。腰ベルトは強度を有する帯状布から成り、その基端部をキャリア本体 1 の下面側の中央部に若干の間隔を置いて縫着してある。両腰ベルト 4 a , 4 b の先端側に取り付ける掛止具 5 a , 5 b はバックのベルトを着脱する際に用いる掛止具と同様なものであるが、強度的に十分なものを用いている。また、掛止具 5 a , 5 b には両ベルトの先端部を挿通して

50

折り返し、移動可能に固定してある。これにより、腰ベルト 4 a , 4 b は使用者の腰周りに適度な締め付けを持って巻回装着され、また、掛止具 5 a , 5 b の掛止を外すことにより、簡単に開放することができる。

尚、上記した腰ベルト 4 a , 4 b は 2 本のベルトと掛止具 5 a , 5 b とにより構成したが、同腰ベルトは使用者の腰周りに巻回して適度に締め付けることができるものであればよい。例えば、腰ベルトは単なる帯紐から構成してもよく、これを使用者の背後で縛って締め付けてもよい。

【 0 0 1 4 】

図 2 及び図 3 は、上記したように構成したベビーキャリア A を使用者が装着して乳幼児を抱っこした状態を示している。

使用者は無端状のベビーキャリア A を頭から被り、肩帯 2 を一方の肩（図面では右肩）に掛ける。そして、腰ベルト 4 a , 4 b を腰周りに巻回し、背後にて掛止具 5 a , 5 b を接続する（図 3）。この状態にて肩帯 2 は使用者の肩から背中にかけて掛け回され、キャリア本体 1 が使用者の正面にて保持された状態となる。このようにベビーキャリア A を装着した後、使用者は乳幼児をキャリア本体 1 内に抱えて移動し、その中に寝かせたり、また、図示するように上半身を起こした状態で座らせ、子供と正対する姿勢でサポートする（図 2）。

上記したようにベビーキャリア A を使用して乳幼児を抱っこした場合、腰ベルト 4 a , 4 b により、キャリア本体 1 を使用者の腹部前において確実に保持することができる。よって、姿勢の変化により肩から吊持されるキャリア本体 1 が子供と共に揺れ動いたとしても、使用者とキャリア本体 1 の間が開いてしまうことがない。また、キャリア本体 1 に包まれる乳幼児を安定してサポートすることができるので、使用者が大きく動いた場合でも、乳幼児がキャリア本体 1 内にて大きく姿勢を崩してしまったり、キャリア本体 1 と使用者の腹部との間から滑り落ちたりする不具合を回避することができる。

また、使用者が前かがみとなって乳幼児をベッド上に移す場合なども腰ベルト 4 a 4 b の保持力によりキャリア本体 1 が安定しているので乳幼児の移動を安全に行なうことができる。

【 0 0 1 5 】

図 4 乃至図 6 は、本考案第 2 実施例のベビーキャリア A 2 を示している。本実施例のベビーキャリア A 2 は、キャリア本体 1、肩帯 2 係止体 3 を上述したベビーキャリア A と同様に構成してある。尚、図 4 はキャリア本体 1 を完全に二つ折りにした状態を示している。この図にて示すように、ベビーキャリア A 2 の特徴は、腰ベルト 4 a , 4 b の取付位置をキャリア本体 1 の両端部寄りの位置に離間して設けている点である。両腰ベルト 4 a , 4 b は、補強片 4 c を介してキャリア本体 1 中央部の両端部付近に縫着してある。また、両腰ベルト 4 a , 4 b の先端部には掛止具 5 a , 5 b が取り付けてあり、前記したものと同様に使用者の腰周りに巻回し、背後にて着脱できるように構成してある（図 6）。

上記したよう構成したベビーキャリア A 2 は、腰ベルト 4 a , 4 b の取付位置をキャリア本体 1 の両端部に離してあるため、装着状態において腰ベルト 4 a , 4 b の位置が使用者のウエスと付近まで上がることになる（図 5）。よって、乳幼児をキャリア本体 1 内に座らせて上半身を起こした状態で抱っこしても、キャリア本体 1 の一側から垂れ下がる足が腰ベルト 4 a , 4 b に掛かることがなく、使い勝手が非常によい。

【 0 0 1 6 】

尚、上記した腰ベルト 4 a , 4 b の取付位置は子供の足に掛からない範囲で適宜に変更することもできる。また、腰ベルトの幅や形態を変更してもよい。例えば腰ベルトを幾分長めの帯紐状として使用者の背後にて適宜に締め付けて縛り付けるように構成してもよい。

また、キャリア本体 1 や肩帯の形態も本考案の機能に支障の出ない範囲で変更してもよく、素材や補強手段も任意に変更することも考慮される。特に肩帯は乳幼児の体重が加わるので出来るだけ広い方が使用者の負担が軽減される。よって、肩帯の中央部は、図示するように、肩を中心に上は首付近から下は腕の付け根付近までを覆うように幅広く形成す

10

20

30

40

50

ることが好ましい。

さらに、上記実施例におけるキャリア本体 1 の両側縁部 1 a , 1 b に沿設するクッション材は本体側縁部内に内装する以外に、縁部の外に沿ってクッション材をカバーする形で沿設することもできる。また、同様なクッション材は使用者の体に当接する肩帯の一部若しくは全面的に設けてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図 1】 本考案に係るベビーキャリアを示す斜視図。

【図 2】 本考案のベビーキャリアを装着し、乳幼児を抱っこした状態を示す斜視図。

【図 3】 本考案のベビーキャリアを装着した状態を背面側から見た斜視図。

10

【図 4】 本考案の第 2 実施例のベビーキャリアを示す斜視図。

【図 5】 同ベビーキャリアを装着し、乳幼児を抱っこした状態を背面側から見た斜視図。

【図 6】 同ベビーキャリアを装着した状態を背面側から見た斜視図。

【符号の説明】

【0018】

A , A 2 . . . ベビーキャリア

1 . . . キャリア本体

1 a . . . キャリア本体の一侧縁

1 b . . . キャリア本体の他側縁

2 . . . 肩帯

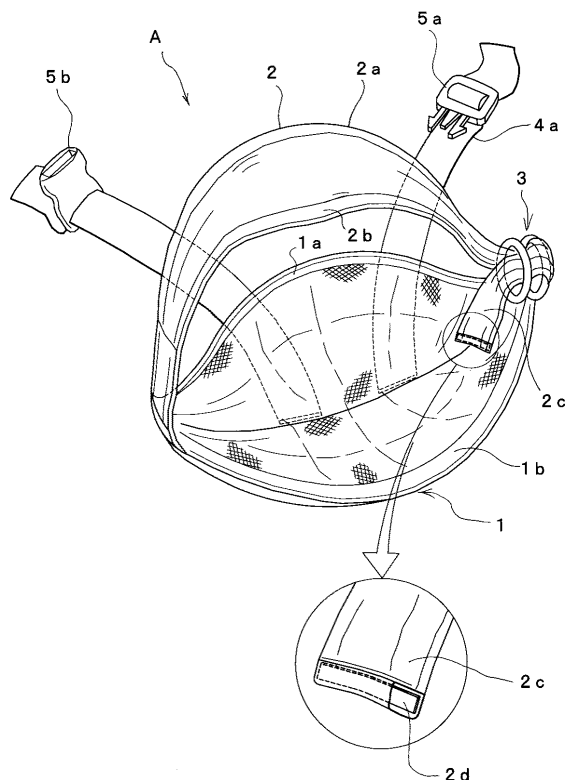
3 . . . 掛止体

4 a , 4 b . . . 腰ベルト

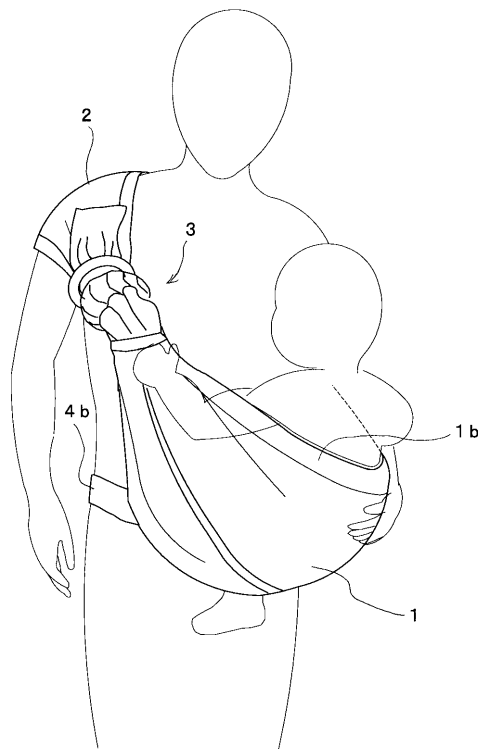
5 a , 5 b . . . 掛止具

20

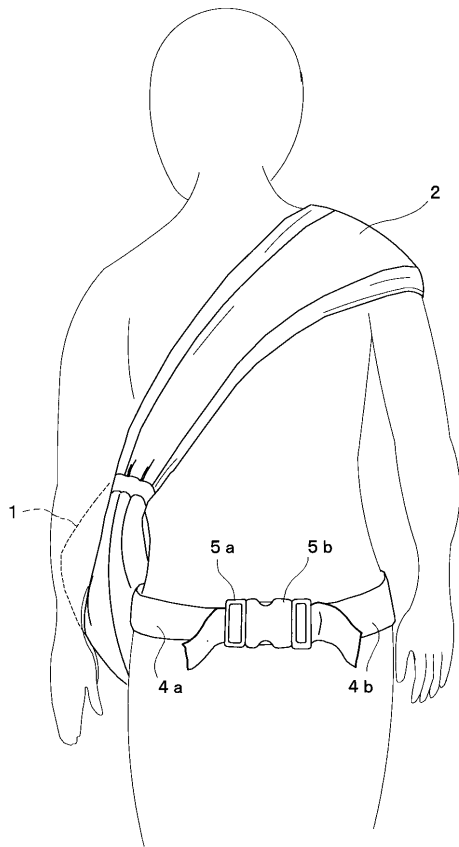
【図 1】



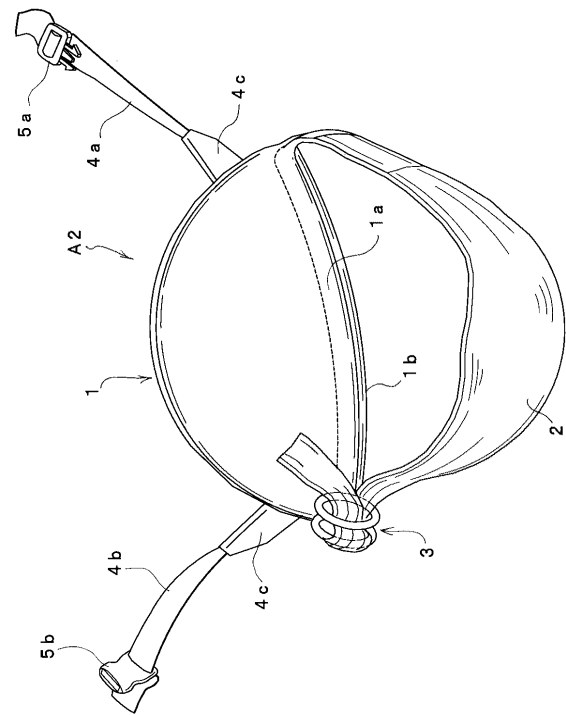
【図 2】



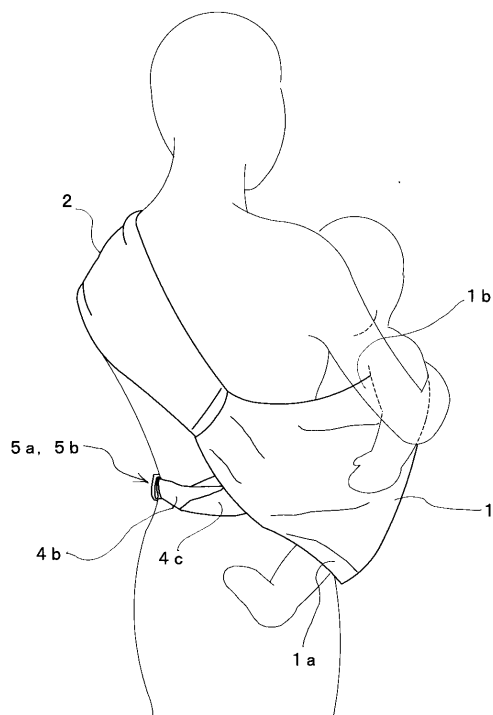
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

